

環境経営レポート

令和2年4月～令和3年3月



 宮崎建設株式会社

令和3年5月7日作成

目次

1. 環境経営方針
2. 組織概要
3. 実施体制
4. 環境経営目標(長期目標、環境経営計画)
5. 実績・評価
6. 環境関連法規制等遵守状況
7. 代表者による全体的評価と見直し
8. 地域環境への貢献

1. 環境経営方針

【企業理念】

我が社は、「自然環境を大切にせる企業」として建設事業を営む。自然環境と住環境の保全を意識し、お客様の多種多様なご要望にえられるような人材の育成と、技術の向上に努めてまいります。

【環境経営方針】

環境対策経営を実践し、環境負荷の低減、環境に配慮した活動に取り組み環境経営目標・活動経営計画の状況を確認・評価し、環境経営システムを継続的に改善します。

1. 省資源・省エネルギー・リサイクル活動を推進し、二酸化炭素の排出量、廃棄物の排出量、水利用の削減に努めます。建設リサイクル法による建設副産物の3Rにも取り組みます。
2. 建設工事による自然環境・住環境への影響を低減し、環境に配慮した事業展開に努めます。
3. 環境関連の法律を遵守し、安全安心第1の企業を目指します。
4. 全社員が経営環境方針を理解し、周知徹底するための必要な教育を計画的に行い、社員がいきいきと働ける職場環境整備を目指します。
5. 当社の環境経営方針を社内外に公表し、地域社会とのコミュニケーションを積極的に行い、環境保護ボランティア活動等に積極的に参加をします。

平成22年12月1日制定

令和2年5月9日改定

浜松市西区雄踏町宇布見8991-9

宮崎建設株式会社

代表取締役 宮崎康弘

2. 組織概要

会社名	宮崎建設株式会社
代表者	代表取締役 宮崎康弘
資本金	2,000万円
前年度売上 (第52期)	5億3897万円 〈工事件数229件〉
会社経歴	明治38年 8月 創業 昭和24年12月 静岡県知事登録 登録番号第582号 昭和43年10月 宮崎建設株式会社に組織変更 昭和49年 2月 静岡県知事許可(特-48) 第5200号 平成19年 4月 代表者が宮崎由成より宮崎康弘に変更 平成21年 3月 代表者が宮崎康弘より宮崎由成に変更 平成29年 8月 代表者が宮崎由成より宮崎康弘に変更

建設業の許可、
事業活動の内容

〈静岡県知事許可〉
特1-第5200号 土木、建築、とび・土工、鋼構造物、
ほ装、しゅんせつ、塗装、造園、水道施設工事、解体工事
般1-第5200号 大工、屋根、内装仕上、
タイル・れんが・ブロック工事

産業廃棄物収集運搬業 第02201037618号
(自社収集運搬分のみ)

従業員数 16人
所在地 〒431-0102
静岡県浜松市西区雄踏町宇布見8991-9
TEL : 053-592-0001 FAX : 053-592-6388

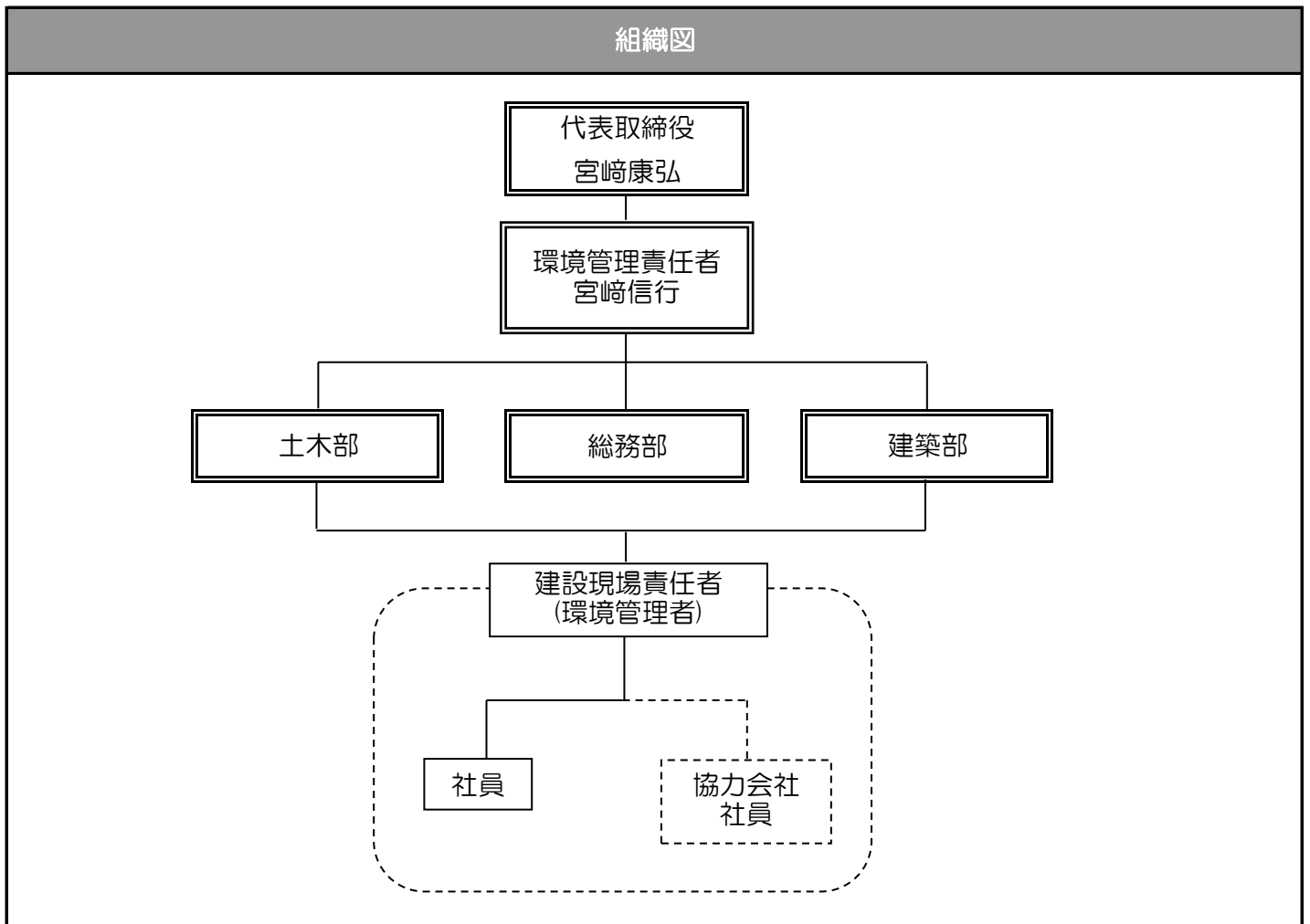
延床面積 1,515.3㎡(事務所628.1㎡・倉庫887.2㎡)

対象範囲 全組織・全活動・全従業員を対象とする

〈環境保全関係の責任者及び担当者連絡先〉

環境管理責任者 宮崎 信行
担当者 藤田 真鈴
連絡先 TEL : 053-592-0001 FAX : 053-592-6388
mail : miyaken-kabu@green.ocn.ne.jp
URL : <http://www.miyaken-kk.jp/>

3. 実施体制



〈 各 責 任 者 及 び 実 施 事 項 〉

責任者	実施事項
代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> ◇環境経営に関する方針を定め、それを誓約する。 ◇環境への取組の方向性を明示し、全従業員に周知する。 ◇環境管理責任者を指名する。 ◇資源(人材・資金・技術)を用意する。 ◇環境経営システムが有効に機能しているか、取組みは適切に実施されているか評価し、見直しをする。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ◇システムの総責任者としての役割権限を他の責任にかかわらず持つ。 ◇具体的な環境への取組みに関する環境経営目標、環境経営計画を策定し、社員に周知する。 ◇環境経営目標の達成状況を確認し、必要に応じて是正処置や予防処置を指示する。 ◇各部門責任者に対して必要な計画、指示、指導等を行う。 ◇経営計画・経営実績を取りまとめ、代表者による見直し資料を作成する。
建設現場責任者 (環境管理者)	<ul style="list-style-type: none"> ◇現場においては環境管理者の役割も果たし、必要な計画、指示、指導、教育、訓練を実施する。
社員 協力会社社員	<ul style="list-style-type: none"> ◇環境経営方針、環境目標を基本に定められた経営計画に従い活動に取り組む。 (但し、協力会社社員は認証登録の範囲外)

4. 環境経営目標

1) 長期環境経営目標値

目標値については、ベースを平成30年度(平成30年4月～平成31年3月)の実績値とし、今後3年間の目標を下表の通り策定した。(目標値は対実績値を示す。二酸化炭素排出量、一般廃棄物、水使用量については3年間で約1%削減(1年間で0.3%)を目標として管理する。リサイクル率は1年間で1%増加を目標として管理する。)

項目	管理単位	単位	平成30年度 実績	平成31年度 目標	令和2年度 目標	令和3年度 目標	
二酸化炭素排出量	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	81,037	80,794	80,051	79,315	
①電気	総使用量	kwh	18,767	18,711	18,654	18,598	
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	9,327	9,299	9,271	9,243	
②灯油	総使用量	L	0	0	0	0	
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	0	0	0	0	
③液化石油 ガス (LPG)	総使用量	Kg	42.23	42.10	41.68	41.27	
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	127	127	125	124	
④ガソリン	総使用量	L	11,675	11,640	11,524	11,408	
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	27,105	27,024	26,753	26,486	
⑤軽油	総使用量	L	16,948	16,897	16,728	16,561	
	CO ₂ 換算値	Kg-CO ₂	44,478	44,345	43,901	43,462	
廃棄物	①一般廃棄物の削減	総廃棄量	t	0.88	0.88	0.87	0.86
	②建設副産物リサイクル化推進	リサイクル率	%	96.4	97.4	98.3	99.3
水使用量	総使用量	m ³	133	133	132	132	
地域環境への貢献	環境ボランティア活動への参加。						

- ・購入電力係数は平成26年度の0.497Kg-CO₂/kwhを使用
- ・環境に配慮した工事施工の推進(騒音・粉塵対策に心掛けて現場の施工をする)

2) 環境経営計画及び具体的施策 [令和2年度]

①電気使用量の削減	責任担当部署
<ul style="list-style-type: none"> • 昼休み時間の消灯、不要な電気の消灯、トイレの使用時以外の消灯 • 残業及び夜間照明は必要最低限にする • 消費電力の少ない電気製品への移行 • O A機器不使用時には電源を切る • 冷暖房温度設定の適正化 	<p style="text-align: center;">全社</p>
②燃料使用量(灯油・液化石油ガス)の削減	責任担当部署
<ul style="list-style-type: none"> • 暖房器具の不必要な暖め過ぎに注意する • お湯の沸かしすぎ禁止 • 保温ポットの使用 	<p style="text-align: center;">総務部</p>
③燃料使用量(ガソリン・軽油)の削減	責任担当部署
<ul style="list-style-type: none"> • 工事車両、重機等のアイドリングストップの励行 • エコドライブの励行 • 燃費管理表を作成し、乗る人のエコに対する意識を高める 	<p style="text-align: center;">土木部 建築部</p>
④廃棄物の削減	責任担当部署
<ul style="list-style-type: none"> • ゴミの分別を徹底し、リサイクルに努める • 物品の購入に際しては、可能な限り詰替え可能な製品を選ぶ • 裏紙の活用 • ミス印刷の防止(事前確認)する • 資料の保管はPDFを利用し、データとして保管する 	<p style="text-align: center;">全社</p>
⑤水使用量の削減	責任担当部署
<ul style="list-style-type: none"> • 水を出しっぱなしにしない等節水に努める • 定期的に漏水の点検をする 	<p style="text-align: center;">総務部</p>
⑥環境に配慮した事業展開	責任担当部署
<ul style="list-style-type: none"> • 現在の基準にクリアした建設機械の使用 • エコ設計の積極的な提案 • 環境に配慮した施工の実施 	<p style="text-align: center;">土木部 建築部</p>
⑦地域環境への貢献	責任担当部署
<ul style="list-style-type: none"> • 環境ボランティア活動への積極参加 浜名湖クリーン作戦(6月第1日曜日) 草刈(環境美化運動) 	<p style="text-align: center;">土木部 建築部</p>

5. 実績・評価

1) 令和2年4月～令和3年3月取組結果

評価結果◎:80%以下 ○:80%超～100% △:100%超～120%以下 ×:120%超

項目	管理単位	単位	令和2年度 目標	令和2年度 実績	対目標値比	評価 結果
二酸化炭素排出量	CO2換算値	Kg-CO2	80,051	120,949	151%	×
①電気	総使用量	kwh	18,654	18,786	101%	△
	CO2換算値	Kg-CO2	9,271	9,337		
②灯油	総使用量	L	0.0	0.0	-	-
	CO2換算値	Kg-CO2	0.0	0.0		
③液化石油ガス (LPG)	総使用量	Kg	41.68	47.47	114%	△
	CO2換算値	Kg-CO2	125	142		
④ガソリン	総使用量	L	11,524	10,963	95%	○
	CO2換算値	Kg-CO2	26,753	25,452		
⑤軽油	総使用量	L	16,728	32,777	196%	×
	CO2換算値	Kg-CO2	43,901	86,018		
廃棄物	①一般廃棄物の削減 総廃棄量	t	0.87	0.66	76%	◎
	②建設副産物リサイクル化推進 リサイクル率	%	98.3	97.7	101%	△
水使用量	総使用量	m ³	132	131	99%	○
地域環境への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年6月に参加している浜名湖クリーン作戦はコロナの影響で中止。 ・令和2年8月7日(金)浜松建設業協会 道路清掃・河川堤防の草刈(環境美化運動)に参加。 					

※購入電力係数は平成26年度の0.497Kg-CO2/kwhを使用

2) 取組結果の評価及び次年度の取組

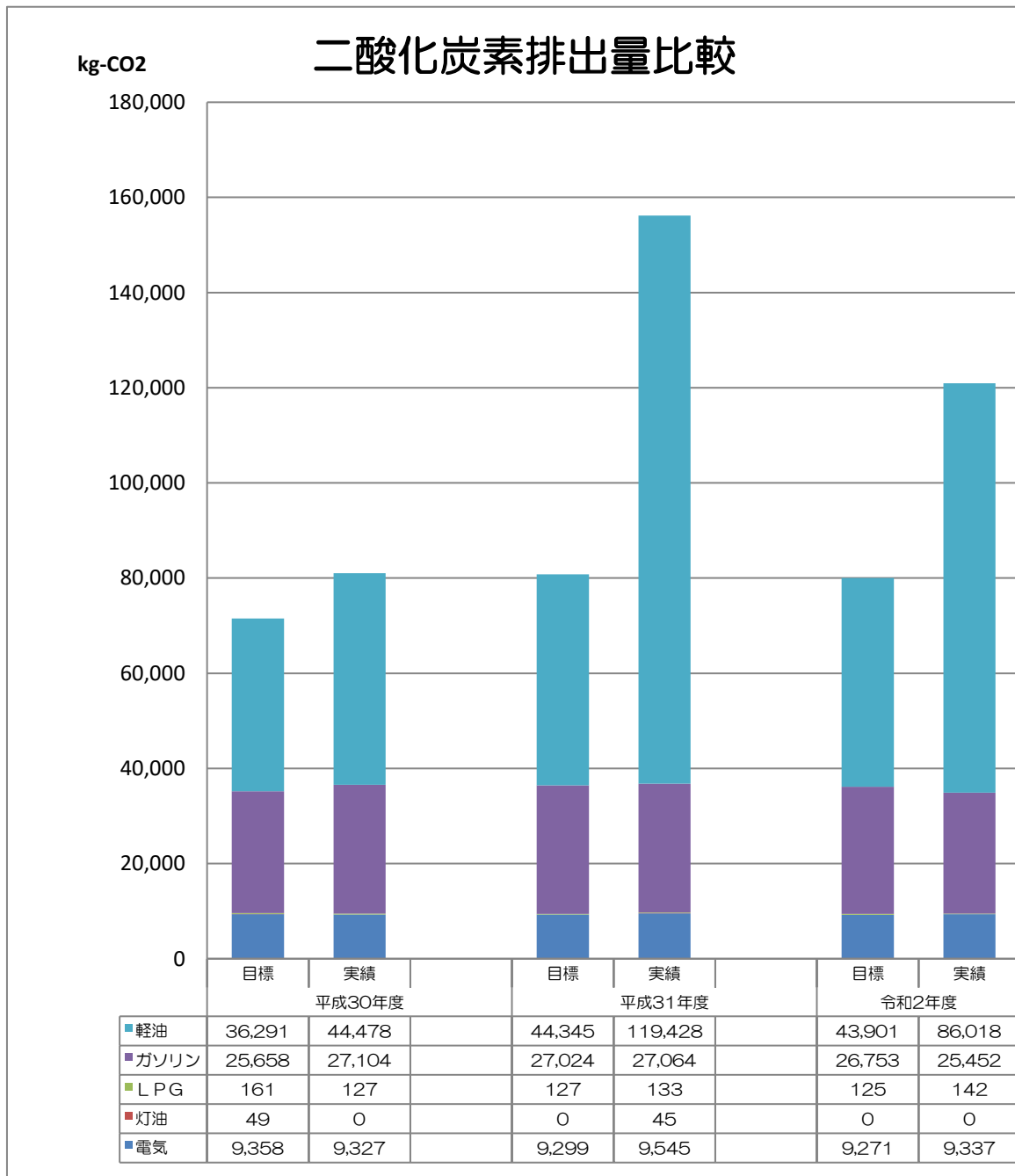
総評
<p>二酸化炭素排出量の合計値は80,051K g-CO₂に対し120,949K g-CO₂と目標の151%となった。 今年度も二酸化炭素排出量で大きな数値を占めている軽油の使用量が多くなったため二酸化炭素排出量は増加した。</p>

評価結果◎:80%以下 ○:80%超~100% △:100%超~120%以下 ×:120%超

二酸化炭素排出量	①電気 目標18,654kwh→結果18,786kwh 【対目標101%】	評価結果	令和3年度取組内容
	電灯料、現場用動力の電気(エアコン分含む)は両方とも微増だが目標に対しても増加した。昨年度との比較だと多少減少していた。	△	2階だけの事務所になり電気使用量の効果がでるのはこれからだと思うが使用量が削減するよう努力する。
	②灯油 目標0.0L→結果0.0L 【対目標 - %】	評価結果	令和3年度取組内容
	灯油の使用なし	-	今までと同様に使用量の削減に努める。
	③液化石油ガス 目標41.68kg→結果47.47kg 【対目標114%】	評価結果	令和3年度取組内容
	昼用のお湯が足りない時があるのでポットを大き目ものに変更したため使用量が増加した。	△	不必要な時にはお湯を使わないようにして使用量が削減するよう努力する。
	④ガソリン 目標11,524L→結果10,963L 【対目標95%】	評価結果	令和3年度取組内容
	目標に対しては95%と減少した。昨年と比較すると現場分約41L減少、車分は約652L減少している結果となった。	○	1台ごとに燃費管理表をデータ化して燃費について見つめ直す。
	⑤軽油 目標16,728L→結果32,777L 【対目標196%】	評価結果	令和3年度取組内容
	軽油使用量は対目標値196%と増加。ダンプ等の燃料使用は前年比5,031Lから6,700Lへと増加したが、現場分は40,477Lから26,078Lと減少した。	×	使用量削減は二酸化炭素排出量や会社の経費削減する意味でも重要な項目なので削減できるよう努力する。

廃棄物	①一般廃棄物の削減 目標0.87 t→結果0.66t 【対目標76%】	評価結果	令和3年度取組内容
	一般廃棄物は対目標値76%と減少した。雑がみ、新聞、ペットボトル、ビンの量は昨年度より減少した。燃えるごみは0.11 t増加、ダンボールと缶は多少だが増加していた。	◎	飲み物等はマイボトル持参し、ゴミがでないよう心がける。
廃棄物	②建設副産物 リサイクル化推進 目標98.3%→結果97.7% 【対目標101%】	評価結果	令和3年度取組内容
	再資源化率は対目標値101%となった。量的には2023.6 tと前年度より495.6 t程減少。建設混合廃棄物は前年28.76 tだったのに対して38.97 tと10.21 t増加した。	△	仕事の内容によって数字が変動するのは仕方がないが再資源化率のさらなるパーセントの向上を目指す。
水使用量 目標132m ³ →結果131m ³ 【対目標99%】		評価結果	令和3年度取組内容
水使用量は目標に対して99%と少しだけだが減少した。		○	今後も節水を心がけ継続する。

3) 環境経営目標と実績の年度別比較



※電気の電力係数 年度比較がしやすいよう平成26年度の0.497kg-CO2/kwhに統一表示した。

3年間の二酸化炭素排出量の目標と実績の比較をしてみた。令和2年度は目標を平成30年度の実績値の0.3%減にした。軽油の使用量は平成31年度よりは減少したが使用量がまだ多いので排出量にも影響する。グラフの色でみるとわかるように軽油とガソリンの占める割合が大きいののでそこが減少すると二酸化炭素排出量の削減につながる。環境汚染の影響で世界全体が異常気象になっている。異常気象に慣れて生活していくのではなく原点に立ち回りごみを減らす努力をするべきではないか。スーパー、コンビニの有料化も袋の販売をするのではなく完全にやめるぐらいの措置にしないとごみは減少しないだろう。

政府も2030年の温室効果ガス目標2013年度比46%削減を表明。これから10年弱で脱炭素化へ向けて動きが加速する。我が社もその波に乗り遅れないようにしないとイケない。

6. 環境関連法規制等遵守状況

法規・条例・規制	条項	内 容	確認内容ほか	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	第12条第6項	廃棄物処分業者との委託契約	契約(書)の締結	○
	第12条の3	マニフェストの管理	A票、B2票、D票、E票の返却	○
	第12条の3第2項	マニフェストの保管	5年間	○
	第12条の3第3項	マニフェストの期間内返却	90日以内または180日以内	○
	第12条の3第7項	管理票交付等状況報告書	年1回6月末までに提出	○
	第12条第9項	多量排出事業者(年間1,000 t以上)実績及び処理計画書の報告	6月末までに提出	○
	第16条	投棄禁止	不法投棄を行わない	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則	第8条の2	廃棄物の悪臭・飛散防止	車両荷台にシートを被せる等	○
	第22条	運搬実績報告書	年1回6月末までに提出	○
浜松市・静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例	第10条	産業廃棄物処理委託先の実地確認	毎年1回以上の確認	○
建設機械に関する技術指針(排出ガス対策型建設機械指定制度)	第6章	排気ガス対策型建設機械の使用		○
フロン排出抑制法	第16条	簡易点検の実施		○
建設リサイクル法	第10条	分別解体の励行と再資源化	コンから、アスファルトから木くず、鉄くず	○
家電リサイクル法	第6条	指定家電の収集	テレビ・冷蔵庫他	期間中該当なし
小型家電リサイクル法	第2条の1	OA機器の収集	パソコン・モニタ他	期間中該当なし
自動車リサイクル法	第73条	引取業者への引渡し	リサイクル料金の支払い	○
騒音・振動規制法環境基本条例(浜松市)	第6条	規制基準(騒音・振動)の遵守		○
	第14条	特定建設作業を伴う建設工事、施工時	作業開始月7日前までに届出	○

【環境関連法規制等の遵守及び違反の有無】

環境関連法規制等の遵守活動を行い、その評価を行った結果、環境関連法規制等への違反はありませんでした。

【指摘・訴訟の有無】

環境関連法規制等の遵守活動を通して関係当局よりの違反の指摘はありません。

確認日	確認者
令和3年4月30日	宮崎信行

7. 代表者による全体的評価と見直し

CO2排出量は工事内容により増加したが、これは今年度行った河川工事における大型建設機械・発電機（リース）の常時使用によるもので、建設工事におけるCO2排出量を大きく左右してしまう一番の要因である。しかし現場での使用重機や発電機の、アイドルストップや低燃費型の機械リース等で、今後も使用量の軽減に取り組んでいきたい。なお社員には引き続き削減に努める様に指示をしていく。

地域の環境活動への支援や貢献は、コロナ禍の影響で例年行われていた浜名湖クリーン作戦は中止になってしまったが、建設業協会主催の環境美化運動には参加でき、地域の方々から評価を頂いています。今後はコロナ禍の影響で大規模な奉仕作業等は中止になることが予想されるので、自社独自の地域貢献を進めていきます。

CO2排出量だけにとらわれると、各年度の受注内容によって大きく変化し負担になってしまうので、今後は奉仕活動などを多めに実施して社会に貢献していきます。エコアクション21の活動を通じ社員が、より一層環境問題を理解し、関心を高め、問題意識をもってもらうことによって、地域と会社の良好的な共存をめざし、活動を進めていきます。

見直し項目	変更の必要性	『有』の場合の指示事項等
1 環境経営方針	有・ 無	
2 環境経営目標	有 ・無	いくつかの項目の目標を見直す
3 環境経営計画	有・ 無	
4 環境経営システム	有・ 無	

令和3年4月30日

宮崎建設株式会社
代表取締役 宮崎康弘

8. 地域環境への貢献

令和2年8月7日(金)
浜松建設業協会
道路清掃・河川堤防の草刈
(環境美化運動)

